



マサバ 太平洋系群

主な漁業と漁期

未成魚・成魚 まき網：周年
棒受網：1月～6月
たもすくい網：1月～6月

生態

マサバは日本周辺で漁獲される代表的な浮魚で、1980年代以降資源が減少し続けていましたが、近年回復傾向にあります。

●分布・回遊

静岡県周辺海域に分布するマサバ太平洋系群は日本の太平洋南部沿岸から千島列島沖合に分布しています。

太平洋系群の0歳魚及び1歳魚の一部は北西太平洋に広く分布しています。1歳魚の多くと2歳魚以上は初夏に北上し、秋季まで千島列島東方沖から東北の沿岸地域にかけて索餌回遊を行います。その後、冬季から春季にかけて南下して産卵します。しかし、時折、「根付」と呼ばれる、大規模な回遊を行わないマサバも見受けられます。

●産卵期・産卵場

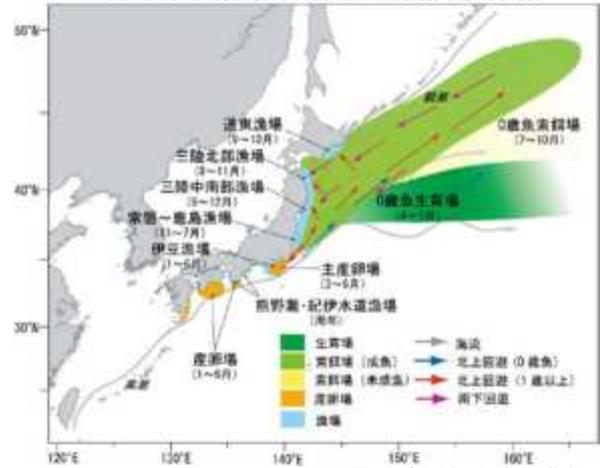
産卵期：1～6月で、最盛期はおよそ2～4月です。
産卵場：主要な産卵場は伊豆諸島周辺海域です。

●成長・成熟

寿命は8歳程度です。1年で尾叉長20cm台後半、体重300g程度まで成長し、4年で30cm台後半、体重700g程度に成長します。しかし、2013年級群以降は成長に遅れが見られ、尾叉長、体重ともに過去平均値と比較してかなり低い値を示しています。

2歳で約20%、3歳で約80%、4歳以上で約100%が成熟します。

マサバ太平洋系群の生活史と漁場形成模式図

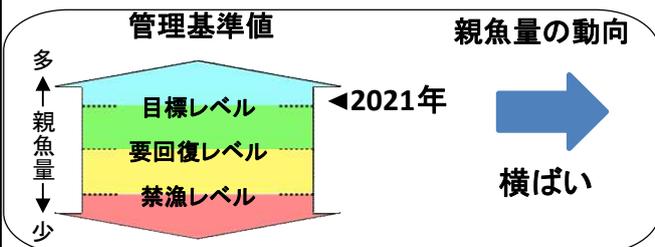


(国研)水産研究・教育機構資料

漁業・資源動向

【資源】

マサバ太平洋系群は、最大持続生産量(長期的に漁獲量が最大となる資源状態を維持することで得られる漁獲量。以下、MSY。)に基づいた資源管理を行っています。



1 2021年の親魚量は1,644千トンと推定され、MSYを実現する目標レベル(1,545千トン)をわずかに上回っています。しかし、漁獲圧はMSYを実現する水準をわずかに下回っています。

2 親魚量の動向は近年5年間の推移から横ばいと判断されます。

《国の資源評価へのリンクはこちら》

簡易版

http://abchan.fra.go.jp/digests2022/simple/2022_05.pdf

詳細版

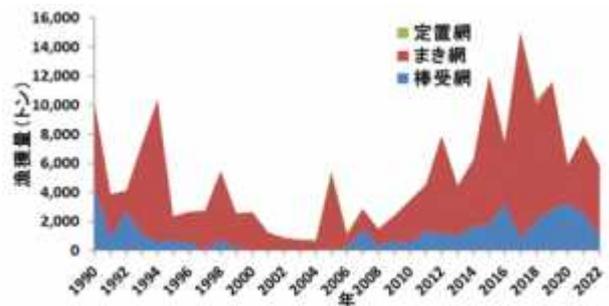
<http://abchan.fra.go.jp/digests2022/details/202205.pdf>

用語解説

<http://abchan.fra.go.jp/digests2022/rule/glossary2022.pdf>

【漁業】

- 1 静岡県では、マサバが県沿岸及び伊豆諸島に來遊する冬から春にまき網とたもすくい網で漁獲されます。
- 2 現在、伊豆諸島周辺海域で操業する静岡県の棒受網・たもすくい漁船は、小川及び安良里に各1隻、伊東に3隻あります。
- 3 親魚量は横ばいであるものの、県内の水揚量は近年減少傾向にあります。この理由としては、成長・成熟の遅れにより、主な操業海域である伊豆諸島周辺海域及び県内沿岸への來遊量が増加していないことが考えられます。



マサバ漁業種類別水揚量の推移

※県内主要4港(小川、沼津、静浦、伊東)合計

担当者の一言: 鮮度が落ちやすい魚ですが、鮮度の良いマサバは各地でブランド魚として注目されています。

問合せ先

静岡県水産・海洋技術研究所資源海洋科

054-627-1817